

宇摩圏域医療再生計画推進協議会資料 (第1回)

日 時 平成22年9月1日(水)午後2時～

場 所 四国中央市役所本庁5階第1委員会室

四国中央市企画財務部企画財政課

愛媛大学地域医療再生学講座「地域サテライトセンター」の現状と今後の予定

現 状

- ・ 平成22年4月1日に、愛媛大学「地域医療再生学講座」開設（教員4名就任）とともに、四国中央市に「地域サテライトセンター」が設置された。
- ・ 四国中央市役所内及び四国中央病院、石川病院に「地域サテライトセンター」設置
- ・ 四国中央病院のセンターに教員1名（小児科専門医）、石川病院のセンターに3名（心臓外科専門医1名、脳神経外科専門医2名）を派遣し、それぞれの病院にて一般および救急診療の支援を行っている。
- ・ 愛媛県、四国中央保健所、四国中央市、四国中央市消防本部、2次救急病院、宇摩医師会等とこれまでの救急医療の経過、今後のあり方等について話し合いを行っている。
- ・ 愛媛大学医学生（5年生）2名の臨床実習（5月10日～21日の間）が石川病院で行われた。

今後の予定（案）

- 1) 愛媛大学医学部附属病院に平成23年6月（予定）に「地域医療支援センター（仮称）」設置。同センターは、各診療科・部門の医師等を支援病院に派遣する。また、前期・後期研修医等に対し、支援病院内において「2次救急医療研修」を実施し、県内の地域救急医療を担える医師を育成・確保する。
- 2) 行政機関、2次救急病院、医師会等が主催する「不急の救急受診の抑制」や生活習慣病に関する説明会・講演会の支援
- 3) 四国中央市の「傷病者の搬送及び受入れに関する実施基準」の検討
- 4) 2次救急病院等の診療環境向上のための医療者への教育支援
- 5) 初期研修医に対する指導（研修指定病院としての業務）

連絡先：

愛媛大学大学院医学系研究科

地域医療再生学講座

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

TEL/FAX 089-960-5930

または、「地域サテライトセンター」設置の四国中央病院（TEL 58-3515、FAX 58-3464）、石川病院（TEL 58-2222、FAX 58-2223）

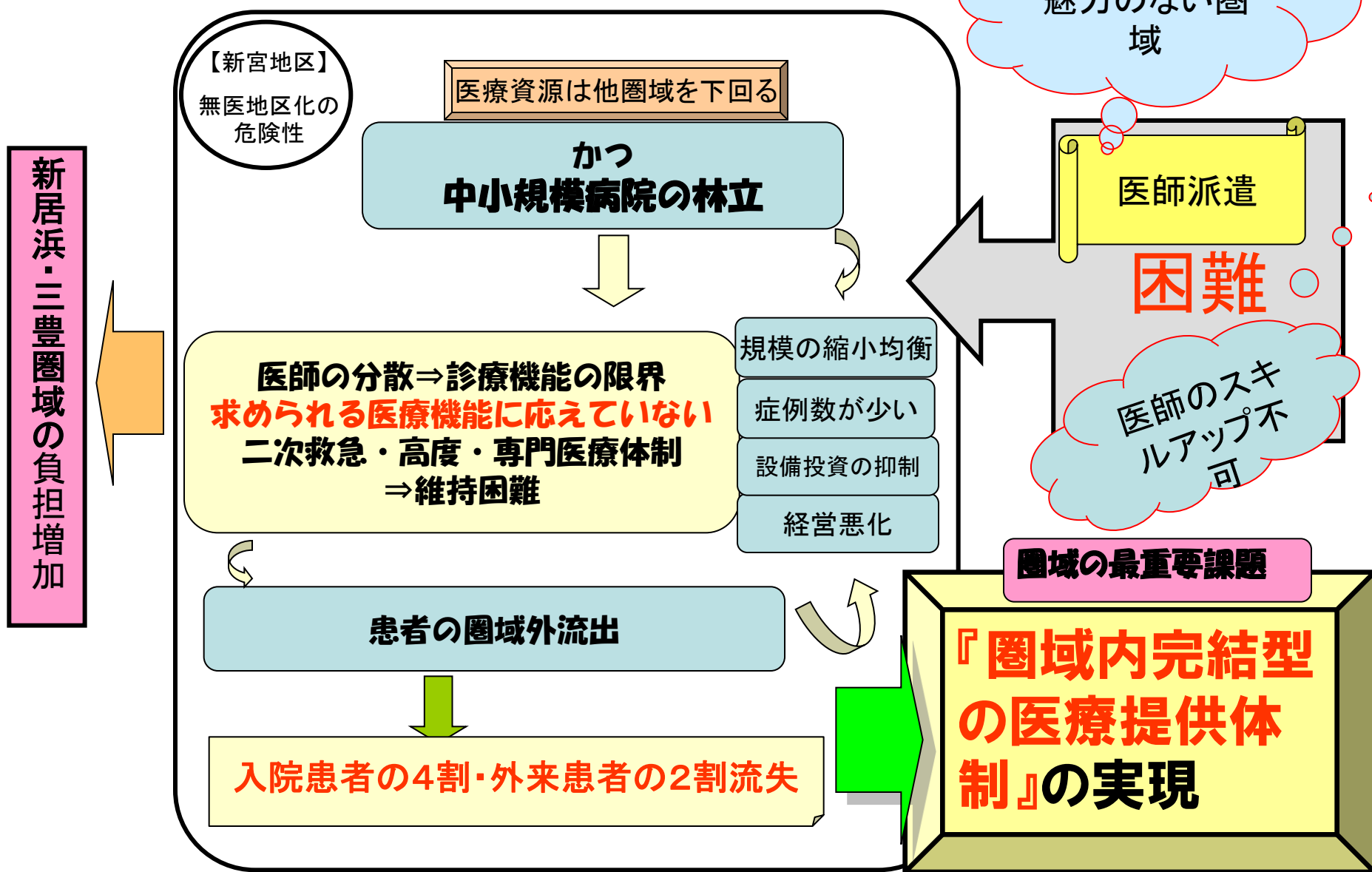
宇摩医療圏における 病床再編計画

愛媛県

1. 宇摩医療圏の概況

- 面積、人口ともに県内6圏域の中で最小
- 人口当たりの医療機関数、総病床数、医師数は、いずれも県平均を下回る
- 病床数は、病院、一般診療所ともに減少。特に、一般診療所は、県平均を大幅に上回る減少率
- 医師数も、県全体では増加している中で、宇摩圏域は大幅に減少
- 内科・外科のほか、急性期・救急医療分野や脳神経外科、産科、麻酔科などの高度・専門医療分野でも医師不足が深刻化

2. 宇摩医療圏の現状と課題



3. 病床再編の目的(課題への対応)

◆圏域内完結型の医療提供体制の実現

<病床再編の5つの狙い>

- ① 県立三島病院の民間移譲を契機とした医療資源の再配分(“危機”から“好機”への発想転換)
- ② 持続可能な二次救急医療体制の整備
- ③ 中核病院の形成(医師確保・定着化の促進、高度・専門医療への対応)
- ④ 三次救急病院の負担軽減
- ⑤ 新宮地区の診療機能の維持、介護療養機能の強化

4. 病床再編の全体像

【新居浜・西条圏域】

【宇摩圏域】

《現状》

<三島・土居地区>

<川之江地区>

<新宮地区>

県立新居浜病院(東予救命救急センター)
【339床
一般300床】

県立三島病院
【183床
一般179床】

四国中央病院
【259床
一般209床】

長谷川病院
【150床
一般42床】

石川病院
【153床
一般104床】

新宮診療所
【12床
一般4床】

10床減床

113床減床

20床増床

10床増床

104床増床

12床減床

《再編後》

県立新居浜病院(東予救命救急センター)
【329床
一般290床】

中核病院

三島医療センター
【70床
一般66床】

四国中央病院
【279床
一般229床】

統合・一元化(将来) 【一般:295床】

長谷川病院
【160床
一般52床】

中核病院

石川病院
【257床
一般208床】

新宮診療所
【無床】

◆機能分化の明確化による負担軽減

◆高度・専門医療(小児・周産期)

◆高度・専門医療(脳外・循環器等)

◆持続可能な二次救急医療体制の構築

◆診療機能の維持、介護・福祉機能の強化

★『圏域内完結型の医療提供体制』の構築

5. 各病院の病床内訳

《現状》

	県立新居浜病 院	県立三島病 院	四国中央 病 院	長 谷 川 病 院	石川病院	新宮診療所
一般病床	300	179	209	42	104	4
療養病床				108	49	8
精神病症			50			
感染症病床	2	4				
結核病床	37					
計	339	183	259	150	153	12

《再編後》



	県立新居浜病 院	三島医療 センター	四国中央 病 院	長 谷 川 病 院	石川病院	新宮診療所
一般病床	290	66	229	52	208	0
療養病床				108	49	0
精神病症			50			
感染症病床	2	4				
結核病床	37					
計	329	70	279	160	257	0

太字…移動部分

6. 病床再編対象医療機関の分布



7. 病床数の増減

① 既存病床数及び基準病少数 (H21.12.31現在)

○宇摩医療圏

既存病床数1,005床－基準病床数661床＝344床の過剰病床

○新居浜・西条医療圏

既存病床数3,033床－基準病床数2,643床＝390床の過剰病床

② 病床再編に伴う病床数の状況

医療圏	医療機関名	現状(a)	再編後(b)	増減(b)-(a)
新居浜・西条	県立新居浜病院	339床	329床	▲10床
宇摩	県立三島病院 (⇒三島医療C)	183床	70床	▲113床
	四国中央病院	259床	279床	20床
	長谷川病院	150床	160床	10床
	石川病院	153床	257床	104床
	新宮診療所	12床	0床	▲12床
計		1,096床	1,095床	▲1床

8. 病床再編のスケジュール

H22.2	国事前協議完了	
H22.3	県医療審議会(再編計画付議) 国に対する増床の同意申請	
H22.3末	県立三島病院(183床:一般179床)の 廃止	
H22.4.1	三島医療センター(182床:一般178床)の 開設	
H22.6.25	国の増床承認	
H22.7.1	三島医療センターの 減床 長谷川病院の 増床	(一般178床⇒168床) (一般42床⇒52床)
<hr/>		
H23.3頃	三島医療センターの 減床 四国中央病院の 増床	(一般86床⇒66床) (一般209床⇒229床)
H23年度中	三島医療センターの 減床 新宮診療所の 減床 県立新居浜病院の 減床 石川病院の 増床	(一般168床⇒86床) (12床⇒0床) (一般300床⇒290床) (一般104床⇒208床)

9. 病床再編後の具体的な取り組み

(1) 県立三島病院の民間移譲を契機とした医療資源の再配分

病床再編により、宇摩圏域の地域医療の一翼を担ってきた県立三島病院の基本的な診療機能を、圏域内の他の医療機関に再配分。これにより、他圏域よりも脆弱な医療資源の一層の縮減を回避

<継承する診療機能>



医療資源(病床)診療機能の再配分

三島医療センター
【新設】

○内科

四国中央病院
【増床】

○内科、外科
○小児科、産婦人科

石川病院
【増床】

○内科、外科
○整形外科、脳神経外科
○泌尿器科

長谷川病院
【増床】

○内科 **太字…主たる継承分野**

医療資源の縮減を回避

(2) 持続可能な二次救急医療体制の整備

二次輪番体制に参画する3病院の増床、1病院を新設するとともに、医師確保や輪番の組み換えを行うことにより、入院機能や経営基盤の強化を図り、持続可能な二次救急医療体制を構築

【二次救急輪番体制】

◆現状

参画病院	県立三島病院	四国中央病院	長谷川病院	石川病院
輪番体制 (負担比率)	4日に1回 (25%)	4日に1回 (25%)	4日に1回 (25%)	4日に1回 (25%)
実際の負担率	19%	25%	11%	37%
現 状	医師不足により、負担率の達成困難		満床状態で、負担率の達成困難	慢性的にオーバーベット状態(疲弊深刻)

※上記4病院の他、圏域内の他の医療機関が8%負担

◆再編後

参画病院	三島医療センター	四国中央病院	長谷川病院	石川病院
	(新設:一般66床)	(一般20床増床)	(一般10床増床)	(一般104床増床)
輪番体制 (負担比率)	5日に2回×1/3 (13%)	5日に2回×2/3 (27%)	5日に1回 (20%)	5日に2回 (40%)
対 応	病床数・医師数規模に応じた、適正な負担率を設定	増床・医師の増加により、負担率を向上	増床により入院余力を確保し、負担率を向上	病床と医師数の大幅増加により、負担率を4割まで引き上げ

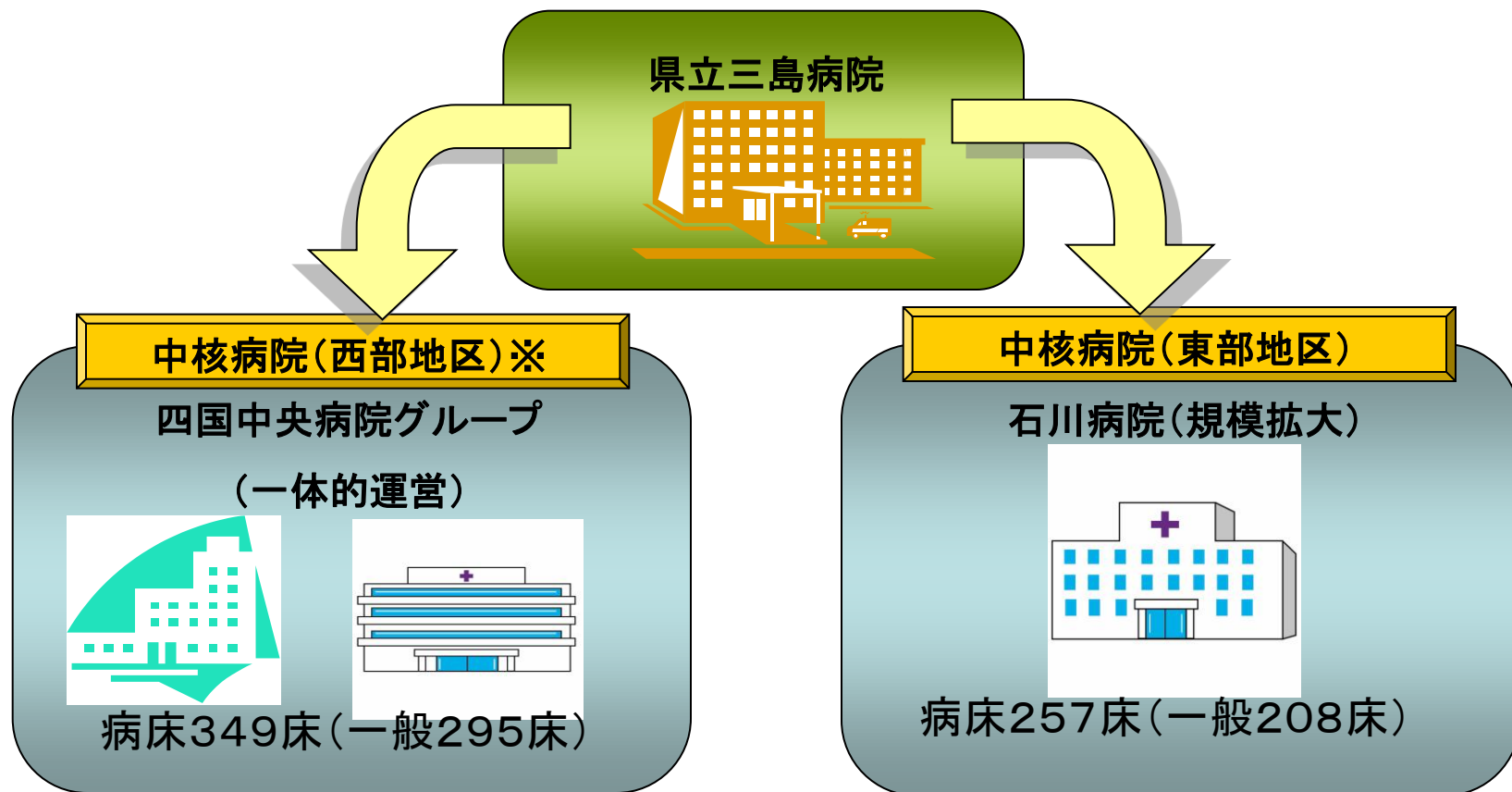
将来、統合により一元化

(3) 中核病院の形成

(医師確保・定着化の促進、高度・専門医療への対応等)

県立三島病院の民間移譲を契機として、再編後の二次救急医療の中核を担うとともに、高度・専門医療ニーズにも対応でき、更には、隣接する医療圏にも対抗し得る「中核病院」を、圏域内の東西に各1箇所整備する。

「中核病院」では、増床に伴う規模拡大、及び、「地域医療再生基金」を活用した施設改修・医療機器整備等により、医師にとって魅力ある(医師の確保、定着化が可能な)勤務環境を確保する。



※四国中央病院では、当面、県立三島病院を継承し整備する「三島医療センター(仮称)」(一般66床)と、本院(一般229床)の2院体制で運営。将来、本院を、三島医療センターに移転統合

(4) 三次救急病院の負担軽減

○県立新居浜病院(東予救命救急センター)では、近年の医師不足に加え、とりわけ、隣接する宇摩圏域からの中等症以下の患者の流入の増大等により、三次救急医療の逼迫化が深刻な課題。

(複数医療圏にわたる広域的な課題)

○医療資源の脆弱な宇摩圏域において、病床再編や病診連携等を通じた改善策を講じても、入院患者等の対応には限界があり、対応能力の拡充を図るためには、圏域外から医療資源(病床)を供給し、入院患者受入能力の絶対量を増加させることが不可欠。

○このため、今回の病床再編を期に、**県立新居浜病院の減床を前提として、宇摩圏域の病床を増床することにより、宇摩圏域の入院機能を更に強化・拡充し、中等症以下の入院患者の圏域外流出を抑制**することにより、県立新居浜病院の負担軽減を図る。

○あわせて、宇摩圏域の二次医療の強化のため、**県立新居浜病院を開設する県(公営企業管理局)から、宇摩圏域の二次救急病院へ医師派遣**等を行うことにより、三次医療と二次医療の役割分担の徹底を図る。

(5)新宮地区の診療機能の維持、介護療養機能の強化

【新宮地区の現状】

①過疎化・高齢化の進展

	H12年度	H21年度	過去10年間の変化
過疎化の進展(地区人口)	1,862名	1,475名	▲387名 (▲20.8%)
高齢化の進展(高齢化率)	42.2%	48.1%	5.9ポイント増

②新宮診療所の医療機能の低下(一般:4床、療養:8床)

- ・H20年度以降、医師が1名体制に(病床12床の休床化)
- ・現在の常勤医師(女性)は、H22年度、出産・育児休暇取得中(代診医派遣で応急対応)
⇒ 診療機能が停止し、『無医地区化』が現実のものとなる危険性大

【新宮地区の将来ビジョン】

○過疎化の進展や無医地区化の危険性が高まる中、病床再編により、圏域内中核病院の支援のもと、必要な医療機能(初期救急・基本診療等)の維持・確保を図る。

○高齢化の進展を踏まえ、医療型療養機能の確保から介護療養機能の拡充・強化に方向転換を図る。

救急患者受入実態調査概要

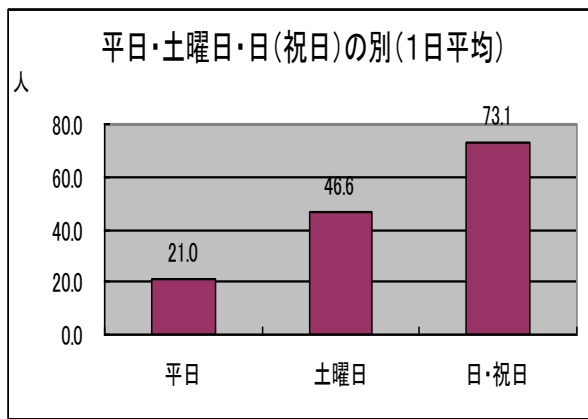
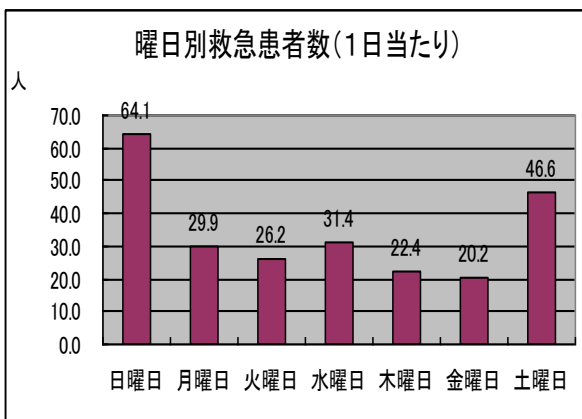
四国中央市

1. 救急患者の概況

(1) 救急患者総数

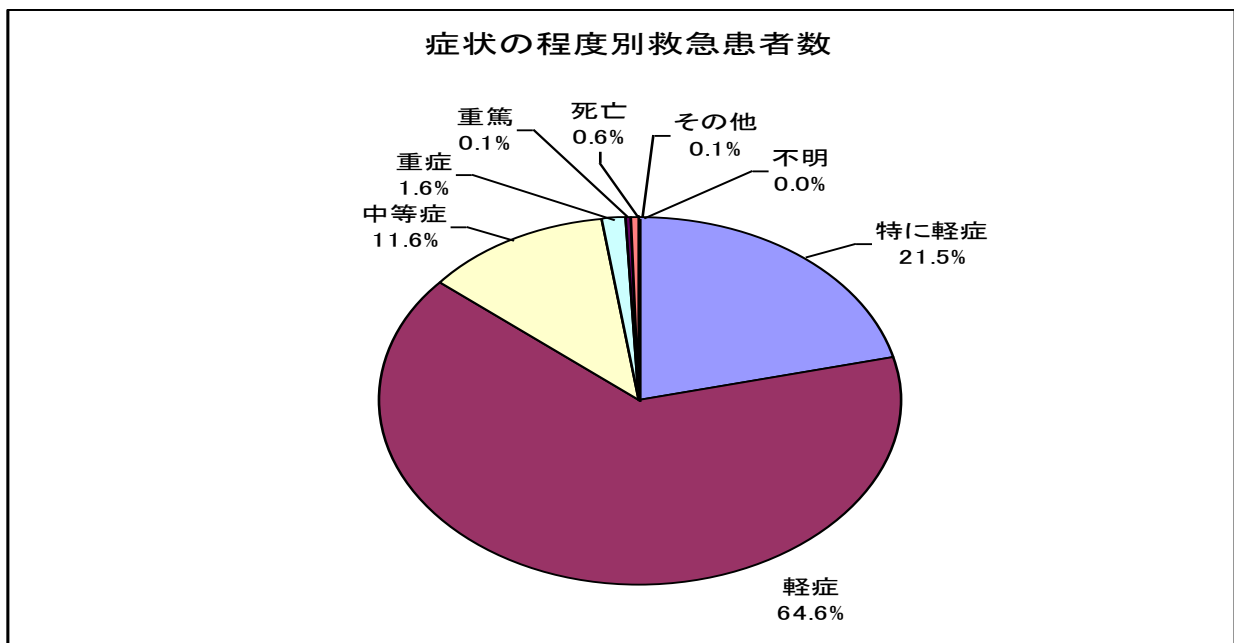
平成 22 年 5 月 1 日から 7 月 31 日の 3 ヶ月間にわたる『二次救急医療機関における救急患者受入実態調査』(以下、実態調査という)の結果、二次救急輪番病院(四国中央病院、三島医療センター、石川病院、長谷川病院)の救急患者(診療時間内の救急搬送患者と診療時間外の全ての患者、但し予約受診は除く)総数は 3,177 人であり、このうち土日・祝日の患者数は 1,896 人、全体の 59.7%を占めている。

曜日別では、日曜日が最も多く 1 日当たり 64.1 人、次いで土曜日が 46.6 人となっており、平日は 1 日平均 21.0 人となっている。



(2) 軽症患者の比率

救急患者総数 3,177 人の内、軽症患者(入院を要しない患者)は 2,734 人、全体の 86.1%となっており、その他に中等症が 11.6%、重症等が 2.3%となっている。



医療機関別の状況は次のとおりである。

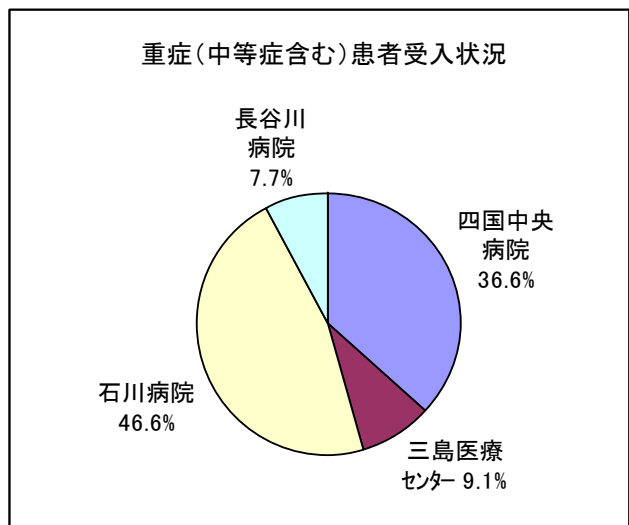
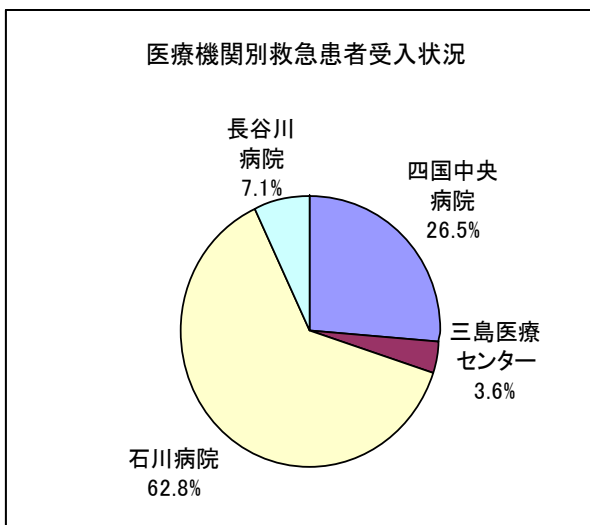
【軽症患者比率】

	四国中央病院	三島医療センター	石川病院	長谷川病院	計
患者数	842 人	115 人	1,995 人	225 人	3,177 人
内、軽症患者	680 人	75 人	1,788 人	191 人	2,734 人
軽症患者比率	80.8%	65.2%	89.6%	84.9%	86.1%

2. 医療機関別の受入状況

(1) 救急患者の受入比率

- ・医療機関別の救急患者の受入比率は、石川病院が 62.8%となっており、以下、四国中央病院が 26.5%、長谷川病院が 7.1%、三島医療センターが 3.6%となっている。
- ・重症（中等症含む）患者の受入比率は、石川病院が 46.6%、四国中央病院が 36.6%、三島医療センターが 9.1%、長谷川病院が 7.7%となっており、本来の二次救急患者である重症（中等症含む）患者に限って見てみると、輪番負担比率（40%、40%、20%）に近い受入状況となっている。
- ・1日当たりの患者数は、単純平均で、石川病院が 21.7 人、四国中央病院が 9.2 人、長谷川病院が 2.4 人、三島医療センターが 1.2 人となっている。



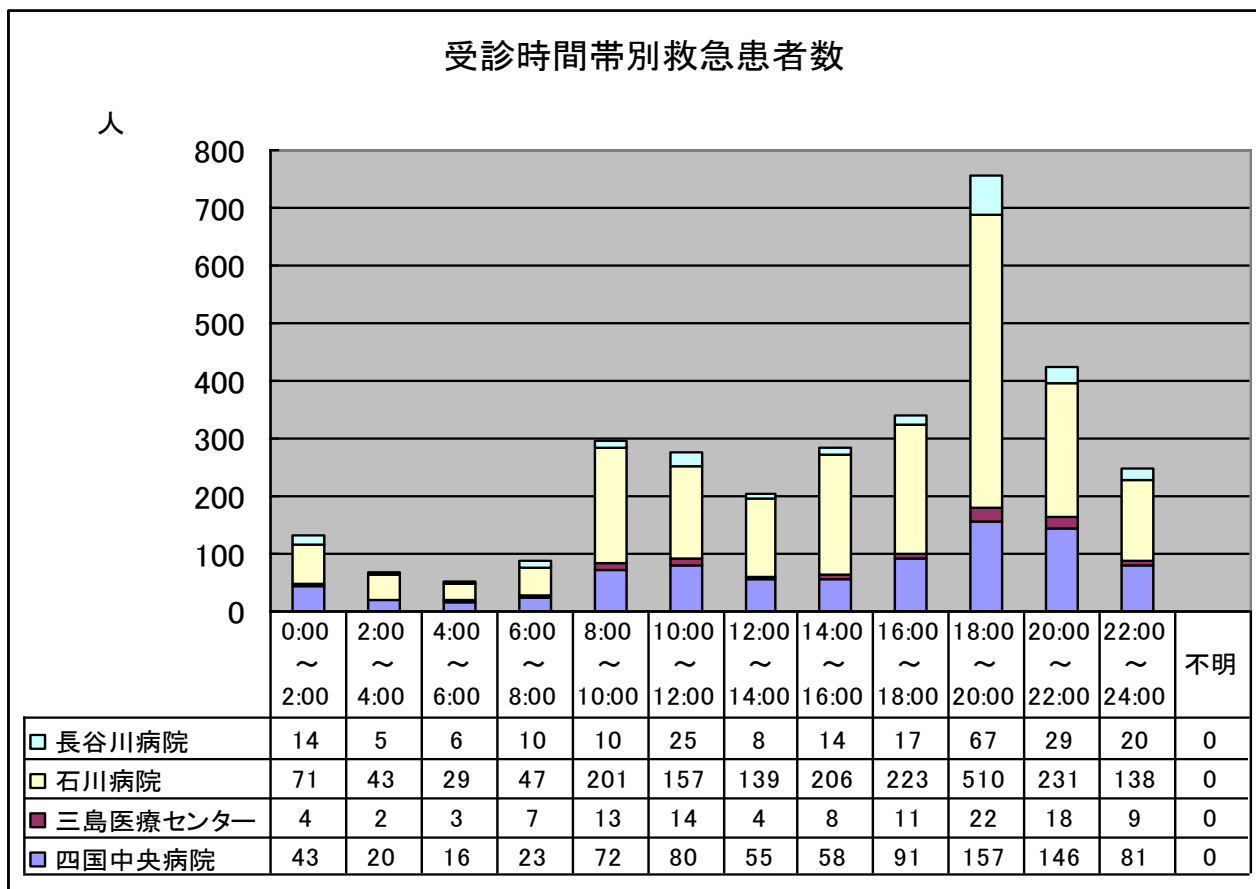
医療機関別の状況は次のとおりである。

【医療機関別の救急患者受入状況】

	四国中央病院	三島医療センター	石川病院	長谷川病院	計
受入患者数	842 人	115 人	1,995 人	225 人	3,177 人
うち軽症患者数	680 人	75 人	1,788 人	191 人	2,734 人
軽症患者比率	80.8%	65.2%	89.6%	84.9%	86.1%
土日祝日患者数	558 人	32 人	1,182 人	124 人	1,896 人
1日平均患者数	9.2 人	1.2 人	21.7 人	2.4 人	34.5 人
受入比率(構成比)	26.5%	3.6%	62.8%	7.1%	100.0%
うち重症患者数	161 人	40 人	205 人	34 人	440 人
重症患者受入比率	36.6%	9.1%	46.6%	7.7%	100.0%

(2) 受診時間帯別救急患者数

- ・ 受診時間帯別では、18時から20時が最も多く756人、全体の23.8%を占めている。



(3) 救急患者の来院形態別の状況

来院形態別では、救急搬送が479人、全体の15.1%となっており、自力(walk-in)での来院は2,677人、84.3%となっている。

救急搬送患者のうち軽症患者は221人、46.1%、自力(walk-in)での来院のうち軽症患者は2,452人、91.6%となっている。

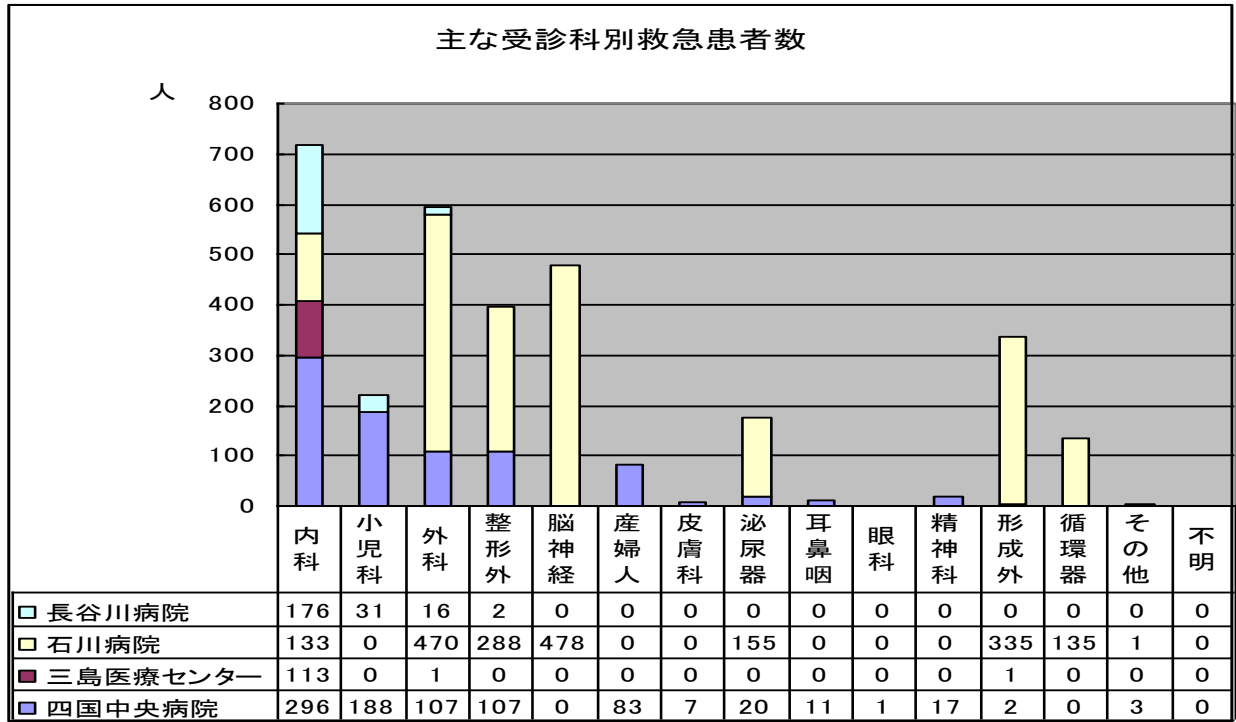
医療機関別の状況は次のとおりである。

【来院形態別救急患者数】

	四国中央病院	三島医療センター	石川病院	長谷川病院	計
救急搬送	160人	44人	260人	15人	479人
うち軽症患者数	81人	13人	121人	6人	221人
軽症患者比率	50.6%	29.5%	46.5%	40.0%	46.1%
自力(walk-in)	677人	71人	1,719人	210人	2,677人
うち軽症患者数	597人	62人	1,608人	185人	2,452人
軽症患者比率	88.2%	87.3%	93.5%	88.1%	91.6%
その他	5人	0人	16人	0人	21人
計	842人	115人	1,995人	225人	3,177人

(4) 救急患者の主な受診科別の状況

受診科別では、内科が 718 人と最も多く、次いで外科が 594 人となっている。医療機関別では、小児・産婦人科については、四国中央病院が全体の 89.7%、また、外科・整形外科・脳神経外科については、石川病院が全体の 84.1%の受け入れを行っており、専門診療分野における機能分担が図られている。



【特定診療科の医療機関別救急患者数】

	四国中央病院	三島医療センター	石川病院	長谷川病院	計
小児・産婦人科	271 人	0 人	0 人	31 人	302 人
構成比率	89.7%	0%	0%	10.3%	100.0%
外科・整形・脳神経	214 人	1 人	1,236 人	18 人	1,469 人
構成比率	14.6%	0.1%	84.1%	1.2%	100.0%

(5) 各輪番日における医療機関別の受入状況

■ 四国中央病院輪番日の救急患者受入状況（27日：うち日曜・祝日7日）

- ・全体の受入患者数は 1,160 人、輪番 1 日当り 43.0 人であり、このうち輪番病院である 四国中央病院が 513 人、受入比率は 44.2% と過半数を下回る状況となっており、その一方で非輪番病院の 石川病院が 598 人、51.5% と過半数の受入を行っている。
- ・輪番 1 日当たりの患者数は、輪番病院の 四国中央病院が 19.0 人 に対し、非輪番病院の 石川病院が 22.2 人 となっている。

【四国中央病院輪番日の状況】

	四国中央病院	三島医療センター	石川病院	長谷川病院	計
受入患者数	513 人	17 人	598 人	32 人	1,160 人
受入比率	44.2%	1.5%	51.5%	2.8%	100.0%
輪番 1 日当り	19.0 人	0.6 人	22.2 人	1.2 人	43.0 人

■ **三島医療センター輪番日の救急患者受入状況（10日：うち日曜・祝日0日）**

- ・全体の受入患者数は247人、輪番1日当り24.7人であり、このうち輪番病院である三島医療センターは35人、受入比率は14.2%となっており、四国中央病院(19.8%)と合わせても過半数を下回る状況となっており、その一方で非輪番病院の石川病院が62.8%と過半数を超える受入を行っている。
- ・輪番1日当たりの患者数は、輪番病院の三島医療センターが3.5人に対し、非輪番病院の石川病院が15.5人となっている。

【**三島医療センター輪番日の状況**】

	四国中央病院	三島医療センター	石川病院	長谷川病院	計
受入患者数	49人	35人	155人	8人	247人
受入比率	19.8%	14.2%	62.8%	3.2%	100.0%
輪番1日当り	4.9人	3.5人	15.5人	0.8人	24.7人

■ **石川病院輪番日の救急患者受入状況（37日：うち日曜・祝日7日）**

- ・全体の受入患者数は1,189人、輪番1日当り32.1人であり、このうち輪番病院である石川病院が893人、受入比率は75.1%となっており、残りは四国中央病院が14.6%、長谷川病院が7.1%、三島医療センターが3.2%の受入を行っている。
- ・輪番1日当たりの患者数は、輪番病院の石川病院が24.1人に対し、他の3医療機関は1.0~4.7人程度の受け入れに留まっている。

【**石川病院輪番日の状況**】

	四国中央病院	三島医療センター	石川病院	長谷川病院	計
受入患者数	173人	38人	893人	85人	1,189人
受入比率	14.6%	3.2%	75.1%	7.1%	100.0%
輪番1日当り	4.7人	1.0人	24.1人	2.3人	32.1人

■ **長谷川病院輪番日の救急患者受入状況（18日：うち日曜・祝日3日）**

- ・全体の受入患者数は581人、輪番1日当り32.3人であり、このうち輪番病院である長谷川病院は100人、受入比率は17.2%となっており、残りは石川病院が60.1%、四国中央病院が18.4%の受入を行っている。
- ・輪番1日当たりの患者数は、輪番病院である長谷川病院が5.6人に対し、非輪番病院の石川病院が19.4人、四国中央病院が5.9人となっている。

【**長谷川病院輪番日の状況**】

	四国中央病院	三島医療センター	石川病院	長谷川病院	計
受入患者数	107人	25人	349人	100人	581人
受入比率	18.4%	4.3%	60.1%	17.2%	100.0%
輪番1日当り	5.9人	1.4人	19.4人	5.6人	32.3人

急患医療センターの整備に係る協議等の進捗状況について

- ◇ 平成 21 年度の宇摩圏域医療再生協議会
急患医療センターのあり方等について協議。
地域医療再生計画において
 - ①老朽化が著しい現施設の移転・新築及び診療に必要な医療機器整備
 - ②診療時間の延長これらにより診療機能の充実を図ることになった。

- ◇ 救急医療対策協議会 平成 22 年 3 月 10 日（水）
急患医療センター整備について、協議会の中に専門委員会を設置し協議していくことを確認。

- ◇ 第 1 回専門委員会 平成 22 年 5 月 31 日（月）
 - 1. これまでの経緯、急患医療センターの利用状況及び救急発生状況等の報告。
 - 2. 確認事項
 - ①協議を月 2 回程度実施。
 - ②場所は現急患医療センターの駐車場に新築し、竣工後現急患医療センターを解体撤去。
 - ③診療時間は 30 分の延長とし、19：30～22：30 とする。
時間延長に係る報酬等は基金を充当する。

- ◇ 第 2 回専門委員会 平成 22 年 7 月 13 日（火）
 - 1. 協議スケジュールについて
H23 当初予算へ計上するために、9 月末～10 月初旬には建設費の積算根拠や購入する備品等を決定。
 - 2. 新急患医療センターの間取り等について
平面図（案）を基に協議
次回、意見を反映し修正したものを再度提示することとする。
 - 3. その他
現急患医療センターの解体撤去費については、基金は充当できない。

- ◇ 救急医療対策協議会総会 平成 22 年 7 月 22 日（木）
これまでの協議内容について、専門委員会の芝委員長より報告。

- ◇ 現在の状況
平面図については、事務局内で検討し修正したものを各専門委員へ配布。
専門委員で再度協議した内容を踏まえ、建築住宅課へ図面の作成を依頼。
8 月 18 日平面図完成、専門委員へ配布。現在、最終調整中。